

池巡り自然探勝路：二湖パノラマ展望台

池巡り自然探勝路は、えびのエコミュージアムセンターに最も近い 3 つの火口湖を巡る約 2 時間の気軽な散策コースです。上りも下りも緩やかで大部分は木陰を通るこの探勝路では、湖や周辺の霧島連峰、この地域の動植物の景色が楽しめます。

最初の二湖

「二湖」とは 2 つの湖（two lakes）という意味で、二湖パノラマ展望台は池巡り自然探勝路で通る 3 湖のうちの最初の 2 つ、北西の眼下に位置する「白紫池」と、北東の方角にある白紫池より大きくより青い「六観音御池」の全景を道中初めて目の当たりにできる場所です。

白紫池は直径約 250 メートルの浅い火口湖です。水深は通常わずか 1 メートルの白紫池は、かつては冬になると湖面が凍結し、スケートリンクとして利用されたことさえありました。気候変動の影響で気温が上昇したことにより、今ではこの湖は最も寒い時期でも凍結しなくなりました。

六観音御池の向こうには、山頂が平たい甕岳がそびえています。そのさらに南東にある、登山道を登ってくる途中のえびの高原展望台からは 2 つの別の山のように見えたものは、一部が崩壊している韓国岳の火口だったことが見てとれます。この少しずつ変化する視点の面白さは、霧島錦江湾国立公園の散策の魅力のひとつです。

アカマツ林に息づく火山活動の歴史

この地域のアカマツ林は、人工的に作られたように見えますが、実は、この林は付近の火山活動がおさまって生育が可能になった時に、木々が自然に一斉に生えてきた結果形成されました。科学者たちはこれらのアカマツの年輪を使い、この現象が 1920 年代に生じたことを特定しました。

ここからは、池巡り自然探勝路は六観音御池に沿って東に進んだ後、南に向かって不動池の周りを通り、えびのエコミュージアムセンターに戻ります。南東に位置する硫黄山の噴煙の強さや方向によっては、曝露を避けるため不動池で引き返すよう指示される場合があります。